平成２９年度あいち労働総合支援フロア調査分析事業

中学生・高校生の職業意識に関する研究

―「職業レディネス・テスト」検査データの分析（応用分析編）―

平成３０年２月２８日

公益財団法人愛知県労働協会

はじめに

最近では多くの業種に人手不足が見られ、それぞれの企業においては、早期離職防止と定着が重要な経営課題になっています。しかし、平成29年の調査によれば、卒業後3年以内の離職率は高校生40.8%、大学生32.3%と依然として高い水準が続いており、企業の人材確保と若者の就労に摩擦が生じている状況です。

こうした若者の雇用問題は、労働条件や業務内容に対する不満、人間関係など職場環境の問題に留まらず、若者の価値観や内面的な意識にも関係するため、その解決を図ることは容易ではありません。

国においては「人生100年時代」を見据えた取り組みが始まり、今の子どもたちは、100歳を超えて生きることも珍しくないという推計も出されています。また、NRI（野村総合研究所）は、10～20年後に、日本の労働人口の約49%が就いている職業において、人工知能やロボット等で代替することが可能であると発表しています。AI時代の到来とともに社会・経済・産業の大規模な構造変化と雇用環境の変容が予測されます。若者が人生をより充実させるには、何よりもこれからの未来社会に調和した人生観・職業観の意識付けが大切になります。そして若者が健やかに成長し、社会とかかわり、自己を確立し、他者とともに次代の社会を担う力をつけることが必要であると考えます。

今後、教育現場や企業において、若者の社会的・職業的な自立を促すための早い時期からの「キャリア教育」「人材教育」への期待が一層高まることが見込まれます。

このような展望のもと、公益財団法人愛知県労働協会では、あいち労働総合支援フロア内で、各種適性検査を使用した若者のキャリア形成支援の取り組みを進めています。併せて、適性検査データを活用した雇用問題の研究にも力を入れています。その成果として平成28年度は、日本労働研修研究機構(JILPT)「職業レディネス・テスト」の判定データを基に中学・高校生の職業意識を時系列に整理し『中学生・高校の職業意識に関する研究―「職業レディネス・テスト」検査データの分析（基礎分析編)』にまとめました。

今年度は、昨年度の研究を基に中学・高校生の職業意識の変化の要因などについて、昨年に続き、南山大学総合政策学部 水落正明教授の協力を得て分析しました。

キャリア教育の現場には、あらゆる場面で、あらゆる機会に、生徒に対し望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に着けさせ、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育む役割があります。

当協会では職業講話や雇用問題の調査研究を通じ、このようなキャリア教育を側面から支えたいと考えています。その一環として今回の調査研究報告書が、企業の人事労務担当及び教育現場の進路指導担当の皆様に有効にご活用いただければ幸いに存じます。

平成３０年２月

公益財団法人愛知県労働協会
理 事 長　　糟　谷　寛　和

執筆担当者

第１章～第４章	氏　名	所　属
	大矢耕誌	愛知県労働協会事業課労働情報グループ

第５章	氏　名	所　属
	水落正明	南山大学大学総合政策学部教授

寄　稿	氏　名	所　属
	梶村章嘉	愛知県労働協会事業課職業適性検査グループ

監　修	氏　名	所　属
	水落正明	南山大学大学総合政策学部教授

目　　次

第１章　研究の背景と目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

第２章　適性検査「職業レディネス・テスト」の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

第３章　グラフでみる各種経済指標及び雇用指標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

第４章　分析編１　高校生の職業興味と志向性の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

1. 問題の所在
2. 分析手続きと分析に用いるデータ
3. 変数の定義について
4. 分析結果の考察
5. まとめ

第５章　分析編２　中高生の職業レディネスに対する景気の影響・・・・・・・・・・・　14

1. ねらい
2. 分析方法
3. 中学生の分析
4. 高校生の分析
5. まとめ

付録　付表 1～12

寄　稿　　職業レディネス・テスト」の活用を通してキャリア教育の推進を！・・・・・　30

1. 「職業レディネス・テスト」における標準得点
2. 「職業レディネス・テスト」の各検査と分析結果
   ―『第 5 章 中高生の職業レディネスに対する景気の影響』水落分析を基に―
3. ワークシートによる職業探索
4. 「職業レディネス・テスト」の活用とキャリア教育の推進

第１章　研究の背景と目的

人口減少時代に入り特定の産業の人材不足が露呈され、企業では事業継続・発展のため将来を担う若手人材の確保・育成が課題となっている。一方「早期離職」、「繰り返される離転職」、「不本意な雇用形態」などから若年者の失業率は他の年代に比べ高く(図表 1)、こうした需給のミスマッチが若者世代の特異な労働市場を形成している。

若い世代の失業に目を向けると、それは単に職を失うだけに留まらず、キャリア形成や職業意識が不十分となり将来設計に影響を及ぼす。そもそも失業の原因が個人の意識にあるのか、職場環境などに起因するのか判然としない部分はあるが、日本経済団体連合会が『2018 年版経営労働政策特別委員会報告』において、若年者の早期離職防止への対応について「ミスマッチによる早期離職を防止するためには、入社前の職場情報の提供や、入社に向けた事前の意識付けが鍵となる」としたように、若者の職業意識のあり方に注目することは、近年の雇用管理の要点であり、、現代の若者の失業問題を解く重要な観点ではないかと考える。特に職業意識の変化を知り、原因の所在を究明し、対処することは、今後のキャリア教育や人材教育において重要なファクターの一つになると予想する。

今回の分析は個人の職業興味・志向性に焦点を当て、中学・高校生が現段階でどの程度、社会的・職業的自立に向けた考えを持つのかを調べることにした。

公益財団法人愛知県労働協会では、若者のキャリア教育推進に資するため平成 28 年度から中学生・高校生の職業意識、職務遂行の自信度などの研究に取り組んでいる。

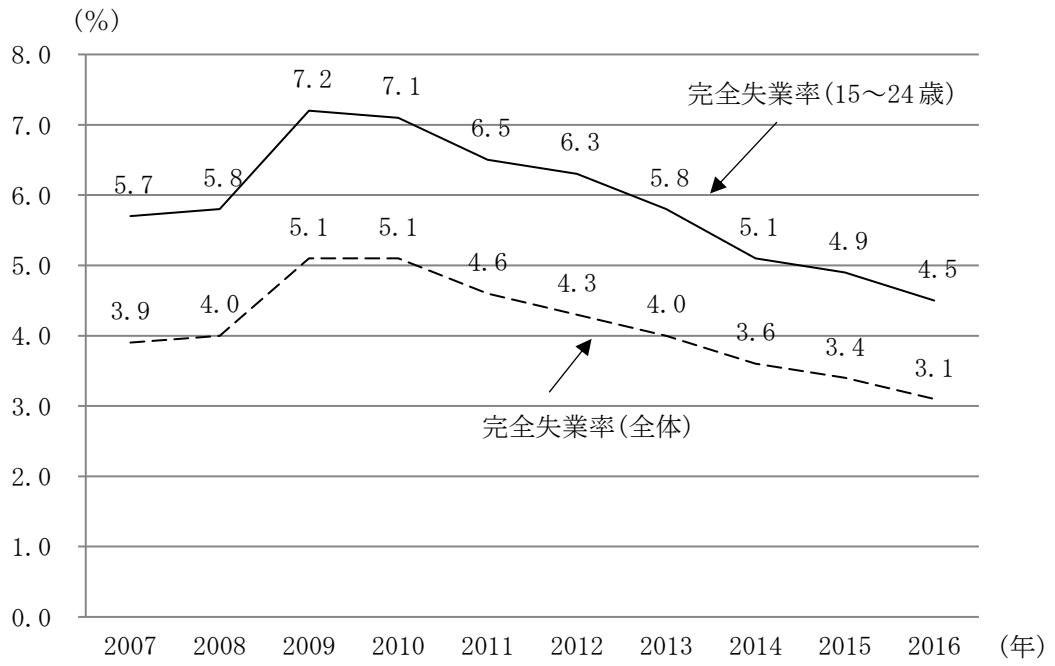
平成 28 年度の研究では、あいち労働総合支援フロア職業適性相談コーナーで実施した労働政策研究・研修機構(JILPT)の「職業レディネス・テスト(※ 1)」の採点・判定データ(2007 年からの約 10 万件) から中学・高校生の職業興味を時系列にまとめた(※ 2)。

分析結果から高校生が職業興味や自信度が 2011 年以降低下していること、普通科の生徒が近年職業興味や自信度が低下していることが分かった。

今回は、平成 28 年度研究(基礎分析編)を拡張し、統計的手法により中・高校生の職業意識の変化の要因を探る。データ解析は南山大学大学総合政策学部　水落正明教授の協力で行い、得られた結果から政策的インプリケーションの導出を試みる。

当研究成果が学校等のキャリア教育及び進路指導等に役立つものとなり、併せてあいち労働総合支援フロアの機関リポジトリ(※ 3)として活用されることを期待する。

(図表 1)　完全失業率の推移



出典:「労働力調査」総務省

(※ 1)　労働政策研究・研修機構『職業レディネス・テスト[第 3 版]手引き』2006.3
「職業レディネス・テスト」(労働政策研究・研修機構(JILPT))は、「職業レディネス」の概念を取り入れた「生徒自身が、自らの進路を選択し、決定することができるように援助する」という進路指導の充実(教師の生徒理解)の観点から作成されているもので、職業分野に向かわせる動因やその心理的構造を数値で視覚的に捉えることができる心理テストである（詳細は次章参照）。

(※ 2)　平成２８年度あいち労働総合支援フロア調査分析事業『中学生・高校生の職業意識に関する研究―「職業レディネス・テスト」検査データの分析(基礎分析編)―』

あいち労働総合支援フロア産業労働情報コーナーホームページ
http://rodoshien-aichi.jp/common/pdf/chosa2016_honpen.pdf

(※ 3) あいち労働総合支援フロアが作成した学術的資料を保管し一般に提供する仕組み。

第２章　「職業レディネス・テスト」の概要

『職業レディネス・テスト』は、1972 年に労働省所管の雇用促進事業団が設立した職業研究所が「自己理解を通じて職業探索へ、職業探索を通じて自己理解へ」を理念に、中学生、高校生の職業的な発達の準備度の測定を目的に開発した検査である。その後、2006 年に職業研究所の後身である独立行政法人労働政策研究・研修機構が従来の開発理念を継承する形で、職業を巡る社会的な状況の変化や現代の若者の生活スタイル、価値観なども考慮し、更には中学生・高校生という早い段階での進路指導や職業意識の啓発の必要性なども視野に入れ『職業レディネス・テスト［第 3 版］』として完成、公表したものである。

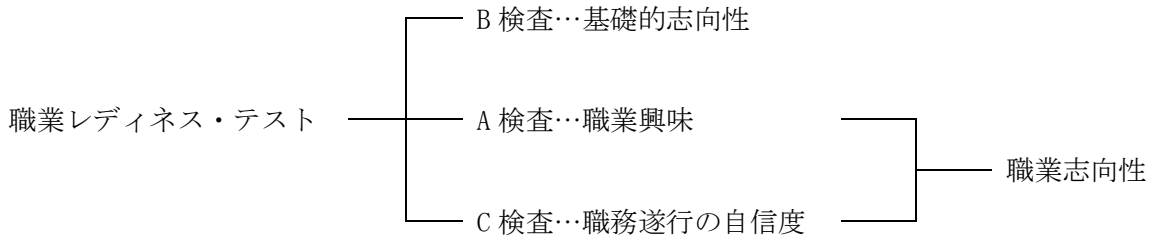
以下、職業レディネス・テストについて簡単に紹介する。

1.　職業レディネス・テストの構成及び特色

(1)　検査の構成

職業レディネス・テストは、職業興味を測定する A 検査、基礎的志向性(日常生活場面での興味の方向)を測定する B 検査、職務遂行の自信度を測定する C 検査からなる（図表 2)。

（図表 2)　職業レディネス・テストの構成



(2)　検査の特色

最新の職業心理学の成果を取り入れている。

・ A 検査は、職業・仕事の内容を記述した 54 項目の質問をからなっており、各質問に対して、好みの程度をそれぞれ 3 段階で評定させることにより職業興味を測定する。この検査は、直接的な好みによる職業興味を測定するため、具体的な職業場面における自己の興味を理解できるようになっている。

・ B 検査は、日常の生活行動や意識について記述した 64 項目からなっており、各質問に対して、あてはまるか、あてはまらないかを評定させることによって、基礎的志向性を測定する。この検査は、日常の生活行動・意識の面から生徒の基礎的志向性を探索できるようになっている。

・ C 検査は、職業・仕事の内容を記述した 54 項目の質問からなっており、各質問に対して、自信の程度をそれぞれ 3 段階で設定させることにより職務遂行の自信度を測定する。この検査は、各種の職業・仕事に対する自信の程度を測定し、職務遂行の自信度という観点から自己の職業観を理解できるようになっている。

・ 以上の各検査を対照することで、ダイナミックな職業志向性のとらえ方ができたり、職業そのものに対する関心と日常生活での興味の方向とを総合した個人の特徴をとらえたりすることができる。

・ 回答は選択肢による自己評定の形を取っているので受検が容易で抵抗が少ない。

・ 結果を記録する用紙がワークシート(※ 4)となっており、検査結果がその後の進路指導の教材として活用できるように工夫されている。

(※ 4)　労働政策研究・研修機構『職業レディネス・テスト[第 3 版]手引き』2006.3

ワークシート「結果の見方・生かし方」は、A4 サイズで 3 枚、両面で 6 ページの様式となっている。内容は、各検査のプロフィールの作成、各尺度と対応する職業例の紹介、自分が興味を持っている職業との照合など、生徒がプロフィールを描くことにより、どのような領域に対する興味が高いのか、低いのかを生徒自身がじっくり検討できるよう、また十分に理解することができるように工夫が施されている。

2. 各検査の測定内容

（図表 3） A、B、C 各検査の領域や志向性

A 検査「職業興味を測定」、C 検査「職務遂行の自信度を測定」検査の領域

領域	
R（現実的興味領域）	機械や物を対象とする具体的で実際的な仕事や活動を好む
I（研究的興味領域）	研究や調査など研究的、探索的な仕事や活動を好む
A（芸術的興味領域）	音楽、美術、文芸など芸術的領域での仕事や活動を好む
S（社会的興味領域）	人に接したり、奉仕したりする仕事や活動を好む
E（企業的興味領域）	企画や組織運営、経営などのような仕事や活動を好む
C（慣習的興味領域）	定まった方式や規則に従って行動する仕事や活動を好む

B 検査「日常生活場面での興味の方向を測定」検査の志向性

志向性	下位尺度	内容
D（対情報関係志向） 知識、情報、概念、データなどを取り扱うのを好む	D1	情報を集める
	D2	好奇心を満たす
	D3	情報を活用する
P（対人関係志向） 人と直接関わっていくような活動を好む	P1	自分を表現する
	P2	みんなと行動する
	P3	人の役に立つ
T（対物関係志向） 機械や道具など、物を取り扱うことや戸外での活動を好む	T1	物をつくる
	T2	自然に親しむ

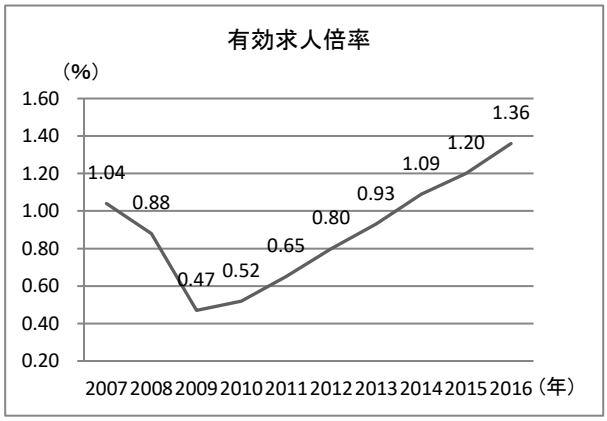
---------- 参考文献 ----------

○『職業レディネス・テスト[第 3 版]手引』 / 独立行政法人労働政策研究・研修機構編著 ；独立行政法人労働政策研究・研修機構, 2006.3

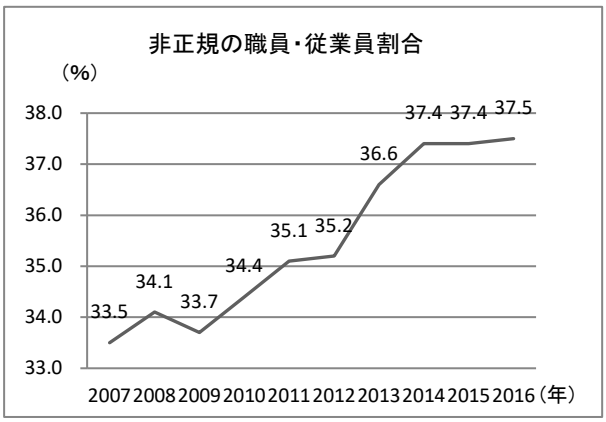
○『労働政策研究報告書 87 2007 中学生、高校生の職業レディネスの発達―職業レディネス・テスト標準化調査の分析を通して―』 / 独立行政法人労働政策研究・研修機構[編]；独立行政法人労働政策研究・研修機構, 2007.5

第３章　グラフでみる各種経済指標及び雇用指標

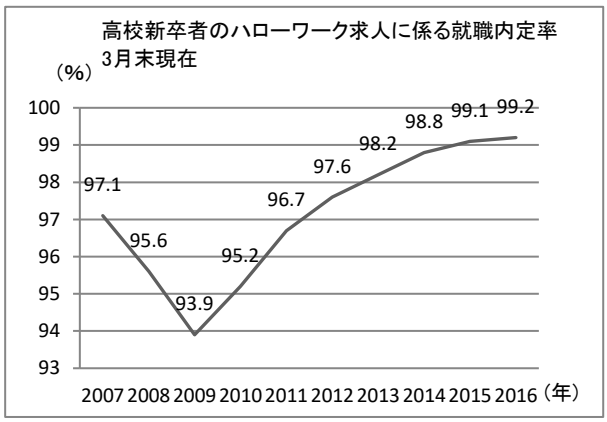
出典:「国民経済計算」(GDP 統計)



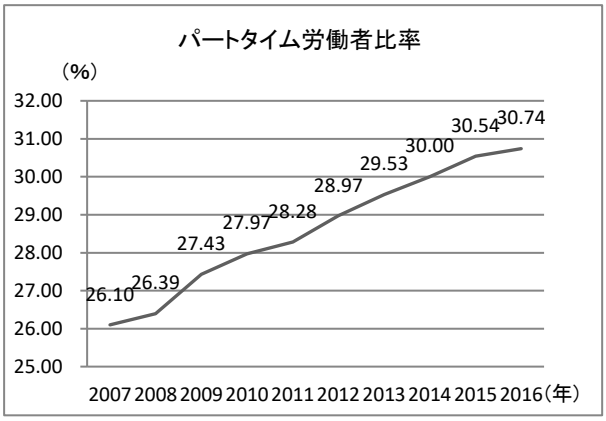
出典:「職業安定業務統計」



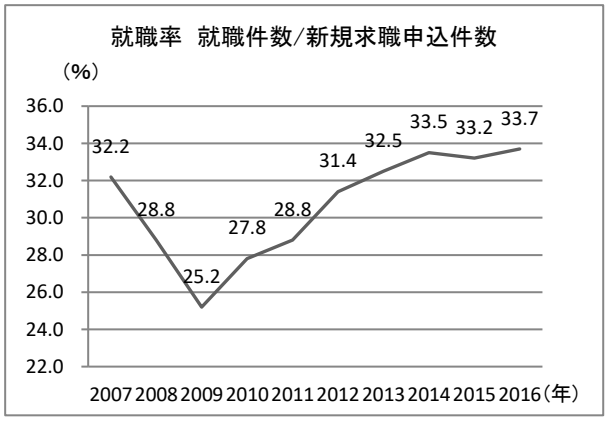
出典:「労働力調査」



出典:「平成 28 年度「高校・中学新卒者の求人・求職・内定状況」取りまとめ」



出典:「毎月勤労統計調査」



出典:「職業安定業務統計」

第４章　分析編１　高校生の職業興味と志向性の検証

大矢耕誌（愛知県労働協会）

1.　問題の所在

平成 30 年 3 月高等学校卒業予定者の就職内定状況は 91.5%となった。就職環境は売り手市場の様相を呈し特定の産業では人材不足が問題となっている。とりわけサービス職業(保健医療・介護、飲食物調理・接客等)、建設業及び輸送業は顕著である。

近年「女性活躍推進」「働き方改革」の機運が高まり、また少子高齢化の影響もあり、介護、保育、看護といった人的サービス業の期待は大きくなっている。しかし、これらの職種は“きつい職場”のイメージが強く、また専門性も高いことから学生の職業選択を限定的なものとしている。

こうした中で介護、保育、看護の職種に興味を示すものが、その職業を選ぼうとする意識や社会的な関係をどのように捉えているのか検証することとした。

若者が職業を選択する過程において、志望動機を何処に求めるのか、何にウェイトを置いているのか、意思決定の過程で自己の意識や技能がどう関わっているのか、それを明らかにすることは、企業の人材確保や人材教育に役立ち、教育現場の進路指導等にも活用できると考える。

今回の研究は、日本労働研修・研究機構(JILPT)発行の「職業レディネス・テスト」の検査データを使い高校生の職業興味と志向性の相関等を検討する。

2.　分析手続きと分析に用いるデータ

分析方法は 2007 年から 2016 年までの、高等学校普通科、商業科、工業科、農林水産学科等（僅かではあるが定時制、特別支援などを含む）で実施した「職業レディネス・テスト」の採点結果約 56,000 件を使い、職業レディネス・テストの A 検査（職業興味）の質問及び B 検査（志向性）の質問から職業興味と世の中に対する関心や行動特性などの相関を調べる。

回帰分析は職種に対する興味と志向性の関連を 2 値プロビット・モデル（※）を gretl により行う。

具体的な方法は、執筆者において A 検査（職業興味）の質問内容から 11 の職種を推定し目的変数とする職種ダミーを設定する。そして B 検査（志向性）から社会性、行動特性などに関する質問を執筆者により 12 問選び説明変数として 12 の志向性ダミーを設定する。

A 検査（職業興味）の回答は「やりたい」「どちらでもない」「やりたくない」の三択方式のため「どちらでもない」を除いた「やりたい」=1、「やりたくない」=0 を職種ダミーの値とし、B 検査（志向性）の回答は「あてはなる」「あてはまらない」の二択方式のため「あてはまる」=1、「あてはまらない」=0 を志向性ダミーの値とする。

（※）　$\Phi(\ )$を標準正規分布の累積分布関数とした場合、2 値プロビット・モデルは　$Pr[D=1|X]=\Phi(\alpha+\beta X)$で表すことができる。

モデル式は、$Y_i=\alpha+\beta_1X_{1i}+\beta_2X_{2i}+\beta_3X_{3i}+\beta_3X_{3i}+\beta_4X_{4i}+\beta_5X_{5i}+\beta_6X_{6i}+\beta_7X_{7i}+\beta_8X_{8i}+\beta_9X_{9i}+\beta_{10}X_{10i}+\beta_{11}X_{11i}+\beta_{12}X_{12i}+u_i$ である。

・観測結果を具体的に示せば、説明変数（志向性）の係数 β_i が『正』であれば、職業に対する興味を高くする。『負』であればその逆となる。また、その度合いについては、説明変数の係数 β_i の大小を判断するのではなく、限界効果により職業興味への寄与率を計る。なお、限界効果とは、各説明変数が変化したときに目的変数の確率がどの程度変化するかの影響度を示すもので、説明変数 X_i 値の変化に伴う目的変数 Y_i 値の変化量である。つまり、説明変数 X_i 値が 1 単位増えたとき Y_i が 1 になる確率が分かる。ここでは、X_i（B 検査（志向性）の回答「あてはまる」=1、「あてはまらない」=0）において、0 と比べ 1 を選択した者がどの程度、職業興味をより持つか、強いかを（1 に近づく）を推定できる。

・有意性とは統計的仮設検定を行う場合に、帰無仮説を棄却するかの判断基準であり、有意水準 5%は帰無仮説が正しいにも関わらず帰無仮説を棄却する危険率が 5%あることを意味する。つまり、変数が職業興味に変化を与える志向性とした場合、5%以下であれば「職業興味に影響を及ぼす志向性に差はない」という帰無仮説は棄却される。

3. 変数の定義について

☆目的変数には、下記 11 職種への興味「やりたい」=1、「やりたくない」=0 を設定する。( ) は「職業レディネス・テスト」A 検査の問題番号と執筆者による職種の推定

① コンピュータを使って、複雑な計算をする。(A_42 システムエンジニア)
② インターネットのホームページのデザインをする。(A_33 ウェブデザイナー)
③ ホテルで、宿泊客の受付や、案内などのサービスをする。(A_22 ホテルマン)
④ トラックを運転して貨物を運ぶ。(A_31 運送業運転手)
⑤ 家庭を訪問して、お年寄りや体の不自由な人の世話をする。(A_34 介護福祉士)
⑥ 患者の体温や血圧を測ったり、入院患者の世話をする。(A_28 看護師)
⑦ 新しい理論を考えて、調査や実験でそれを確かめる。(A_26 研究者)
⑧ 悩みをもつ子どもやその家族からの相談にのり、援助する。(A_46 カウンセラー)
⑨ 自動車のエンジンやブレーキを調べて、修理する。(A_37 自動車修理工)
⑩ 店長として、商品の仕入れや販売方法を工夫し、売り上げを伸ばす。(A_47 販売員)
⑪ 保育園で乳幼児の世話をしたり、いっしょに遊んだりする。(A_04 保育士)

★説明変数には、下記の 12 問の志向性「あてはなる」=1、「あてはまらない」=0 を仮定する。( ) は「職業レディネス・テスト」B 検査の問題番号と執筆者による志向性の定義付け。

X_1 短い間にたくさんの情報を集めることが得意だ。ダミー (B_01　技術力)
X_2 指先を使って物を組み立てるのが得意だ。ダミー (B_03　器用さ)
X_3 グループで行動するのが好きだ。ダミー (B_05　協調性)
X_4 友達や家族の役に立つとうれしい。ダミー (B_08　奉仕力)
X_5 流行に関する情報は雑誌やインターネットでチェックする。ダミー (B_08　情報リテラシー)
X_6 慎重な性格だと思う。ダミー (B_23　性格)
X_7 世の中で起きている事件や出来事に関心がある。ダミー (B_28　社会的興味)
X_8 人より目立つことが好きだ。ダミー (B_34　行動力・承認欲求)
X_9 自分から人に話しかけることが多い。ダミー (B_42　積極性・コミュニケーション)
X_{10} 世の中の役に立つことをしたい。ダミー (B_48　社会貢献)
X_{11} 何かを説明するときにはわかりやすく情報を整理する。ダミー (B_49　論理的思考)
X_{12} 休みの日に家で一人で過ごすのはつまらない。ダミー (B_53　内向・外向性)

職業興味と志向性分析　高校生女子

目的変数「興味ある」=1 「興味ない」=0 （職業興味） / 説明変数「はい」=1 「いいえ」=0 （志向性）		A_42 コンピュータを使って、複雑な計算をする。			A_33 インターネットのホームページのデザインをする。			A_22 ホテルで、宿泊客の受付や、案内などのサービスをする。			A_31 トラックを運転して貨物を運ぶ。			A_34 家庭を訪問して、お年寄りや体の不自由な人の世話をする。			A_28 患者の体温や血圧を測ったり、入院患者の世話をする。			A_26 新しい理論を考えて、調査や実験でそれを確かめる。			A_46 悩みをもつ子どもやその家族からの相談にのり、援助する。			A_37 自動車のエンジンやブレーキを調べて、修理する。			A_47 店長として、商品の仕入れや販売方法を工夫し、売り上げを伸ばす。			A_04 保育園で乳幼児の世話をしたり、いっしょに遊んだりする。		
		システムエンジニア			ウェブデザイナー			ホテルマン			運送業運転手			介護福祉士			看護師			研究者			カウンセラー			自動車修理工			販売員			保育士		
n		女　22814			女　20133			女　19750			女　23860			女　19601			女　20084			女　23965			女　19236			女　24535			女　19769			女　20804		
***有意水準1%、**5%、*10%　で有意		係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果
const		−1.444	***		−0.707	***		−1.000	***		−1.523	***		−1.614	***		−1.633	***		−1.587	***		−1.435	***		−1.691	***		−1.891	***		−0.613	***	
B_01　短い間にたくさんの情報を集めることが得意だ。ダミー	情報収集力	0.402	***	0.073	0.408	***	0.158	0.122	***	0.046	0.027		0.004	−0.069	***	−0.022	−0.009		−0.003	0.339	***	0.042	0.159	***	0.064	0.095	***	0.010	0.251	***	0.082	−0.123	***	−0.040
B_03　指先を使って物を組み立てるのが得意だ。ダミー	技術力 器用さ	0.260	***	0.044	0.409	***	0.160	−0.027		−0.010	0.305	***	0.045	0.045	**	0.015	0.070	***	0.023	0.300	***	0.035	0.029		0.011	0.573	***	0.064	0.264	***	0.085	0.036	*	0.011
B_05　グループで行動するのが好きだ。ダミー	協調性	−0.004		−0.001	0.102	***	0.040	0.227	***	0.087	−0.092	***	−0.013	0.108	***	0.035	0.102	***	0.034	−0.157	***	−0.018	0.063	***	0.025	−0.103	***	−0.011	0.073	***	0.023	0.374	***	0.124
B_08　友達や家族の役に立つとうれしい。ダミー	奉仕力	−0.215	***	−0.040	0.109	**	0.043	0.356	***	0.140	−0.084		−0.013	0.295	***	0.087	0.277	***	0.084	−0.447	***	−0.068	0.456	***	0.176	−0.214	***	−0.025	0.157	***	0.048	0.524	***	0.191
B_17　流行に関する情報は雑誌やインターネットでチェックする。ダミー	情報リテラシー	−0.049	**	−0.008	0.324	***	0.128	0.233	***	0.089	−0.189	***	−0.028	−0.191	***	−0.063	−0.066	***	−0.022	−0.242	***	−0.028	−0.128	***	−0.051	−0.274	***	−0.029	0.215	***	0.068	0.056	***	0.018
B_23　慎重な性格だと思う。ダミー	性格	0.067	***	0.011	0.065	***	0.026	0.067	***	0.026	−0.125	***	−0.017	−0.033		−0.011	−0.030		−0.010	0.037		0.004	0.035	*	0.014	−0.075	***	−0.007	0.026		0.008	−0.058	***	−0.019
B_28　世の中で起きている事件や出来事に関心がある。ダミー	社会的興味	0.099	***	0.016	0.171	***	0.068	0.180	***	0.069	0.144	***	0.020	0.197	***	0.064	0.210	***	0.069	0.412	***	0.046	0.299	***	0.119	0.225	***	0.023	0.208	***	0.066	−0.017		−0.006
B_34　人より目立つことが好きだ。ダミー	行動力 承認欲求	−0.172	***	−0.028	0.082	***	0.032	0.139	***	0.053	0.152	***	0.022	−0.197	***	−0.063	−0.095	***	−0.031	0.065	**	0.007	0.049	**	0.020	0.064	**	0.007	0.357	***	0.118	−0.022		−0.007
B_42　自分から人に話しかけることが多い。ダミー	積極性 コミュニケーション	−0.100	***	−0.017	−0.059	***	−0.023	0.298	***	0.113	0.006		0.001	0.299	***	0.098	0.242	***	0.080	−0.083	***	−0.009	0.340	***	0.135	−0.032		−0.003	0.206	***	0.066	0.320	***	0.103
B_48　世の中の役に立つことをしたい。ダミー	社会貢献	0.154	***	0.025	0.107	***	0.042	0.377	***	0.145	0.159	***	0.021	0.807	***	0.236	0.672	***	0.204	0.284	***	0.029	0.713	***	0.275	0.145	***	0.014	0.375	***	0.114	0.395	***	0.133
B_49　何かを説明するときにはわかりやすく情報を整理する。ダミー	論理的思考	0.218	***	0.038	0.095	***	0.037	0.086	***	0.032	−0.010		−0.001	−0.055	***	−0.018	0.019		0.006	0.224	***	0.026	0.167	***	0.066	0.064	**	0.007	0.189	***	0.061	−0.063	***	−0.020
B_53　休みの日に家で一人で過ごすのはつまらない。ダミー	内向・外向性	−0.085	***	−0.014	−0.178	***	−0.070	0.099	***	0.038	0.042		0.006	0.176	***	0.058	0.169	***	0.057	−0.133	***	−0.014	0.088	***	0.035	−0.033		−0.003	0.117	***	0.038	0.354	***	0.111

職業興味と志向性分析　高校生男子

目的変数「興味ある」=1 「興味ない」=0 （職業興味） 説明変数「はい」=1 「いいえ」=0 （志向性）		A_42 コンピュータを使って、複雑な計算をする。			A_33 インターネットのホームページのデザインをする。			A_22 ホテルで、宿泊客の受付や、案内などのサービスをする。			A_31 トラックを運転して貨物を運ぶ。			A_34 家庭を訪問して、お年寄りや体の不自由な人の世話をする。			A_28 患者の体温や血圧を測ったり、入院患者の世話をする。			A_26 新しい理論を考えて、調査や実験でそれを確かめる。			A_46 悩みをもつ子どもやその家族からの相談にのり、援助する。			A_37 自動車のエンジンやブレーキを調べて、修理する。			A_47 店長として、商品の仕入れや販売方法を工夫し、売り上げを伸ばす。			A_04 保育園で乳幼児の世話をしたり、いっしょに遊んだりする。		
		システムエンジニア			ウェブデザイナー			ホテルマン			運送業運転手			介護福祉士			看護師			研究者			カウンセラー			自動車修理工			販売員			保育士		
n		男　22039			男　20467			男　20186			男　20271			男　21202			男　21695			男　21451			男　20282			男　20690			男　20019			男　19564		
***有意水準1%、**5%、*10%　で有意		係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果	係数		限界効果
const		-1.351	***		-1.140	***		-1.615	***		-0.761	***		-2.071	***		-2.273	***		-1.371	***		-1.861	***		-0.718	***		-1.578	***		-1.203	***	
B_01　短い間にたくさんの情報を集めることが得意だ。ダミー	情報収集力	0.494	***	0.136	0.569	***	0.214	0.150	***	0.047	-0.062	***	-0.024	0.020		0.004	0.105	***	0.017	0.369	***	0.113	0.187	***	0.061	-0.060	***	-0.024	0.311	***	0.113	0.032		0.013
B_03　指先を使って物を組み立てるのが得意だ。ダミー	技術力 器用さ	0.190	***	0.049	0.225	***	0.083	-0.102	***	-0.031	0.305	***	0.117	-0.030		-0.006	0.003		0.000	0.326	***	0.095	-0.080	***	-0.026	0.708	***	0.275	0.116	***	0.042	0.014		0.005
B_05　グループで行動するのが好きだ。ダミー	協調性	-0.012		-0.003	0.061	***	0.022	0.164	***	0.050	0.136	***	0.052	0.042		0.008	0.064	**	0.010	-0.148	***	-0.044	0.048	**	0.015	0.144	***	0.057	0.142	***	0.050	0.185	***	0.072
B_08　友達や家族の役に立つとうれしい。ダミー	奉仕力	-0.027		-0.007	0.087	***	0.032	0.263	***	0.075	0.098	***	0.037	0.334	***	0.057	0.245	***	0.035	-0.091	***	-0.027	0.431	***	0.124	0.126	***	0.050	0.157	***	0.055	0.394	***	0.146
B_17　流行に関する情報は雑誌やインターネットでチェックする。ダミー	情報リテラシー	0.156	***	0.040	0.539	***	0.198	0.073	***	0.023	-0.057	***	-0.022	-0.085	***	-0.017	-0.051	**	-0.008	-0.140	***	-0.041	-0.069	***	-0.022	-0.039	**	-0.015	0.051	**	0.018	-0.102	***	-0.040
B_23　慎重な性格だと思う。ダミー	性格	0.207	***	0.054	0.110	***	0.041	0.053	***	0.016	-0.049	***	-0.019	-0.027		-0.005	0.024		0.004	0.164	***	0.048	0.064	***	0.021	0.010		0.004	0.055	***	0.020	-0.064	***	-0.025
B_28　世の中で起きている事件や出来事に関心がある。ダミー	社会的興味	0.089	***	0.023	0.070	***	0.026	0.199	***	0.061	0.093	***	0.036	0.236	***	0.046	0.232	***	0.037	0.351	***	0.101	0.300	***	0.096	0.126	***	0.050	0.238	***	0.085	0.096	***	0.037
B_34　人より目立つことが好きだ。ダミー	行動力 承認欲求	-0.321	***	-0.078	0.012		0.004	0.127	***	0.040	-0.013		-0.005	-0.010		-0.002	0.021		0.003	-0.004		-0.001	0.160	***	0.053	-0.088	***	-0.035	0.331	***	0.121	0.264	***	0.103
B_42　自分から人に話しかけることが多い。ダミー	積極性 コミュニケーション	-0.071	***	-0.018	-0.039	*	-0.014	0.249	***	0.078	0.054	***	0.021	0.208	***	0.042	0.182	***	0.030	0.012		0.004	0.278	***	0.091	0.029		0.011	0.168	***	0.061	0.294	***	0.115
B_48　世の中の役に立つことをしたい。ダミー	社会貢献	0.138	***	0.035	0.009		0.003	0.265	***	0.079	0.154	***	0.059	0.573	***	0.103	0.591	***	0.084	0.301	***	0.085	0.563	***	0.170	0.250	***	0.099	0.311	***	0.108	0.351	***	0.134
B_49　何かを説明するときにはわかりやすく情報を整理する。ダミー	論理的思考	0.258	***	0.068	0.195	***	0.073	0.146	***	0.045	-0.089	***	-0.034	-0.005		-0.001	0.093	***	0.015	0.294	***	0.088	0.132	***	0.043	-0.033	*	-0.013	0.188	***	0.068	0.013		0.005
B_53　休みの日に家で一人で過ごすのはつまらない。ダミー	内向・外向性	-0.190	***	-0.049	-0.207	***	-0.076	0.031		0.010	0.180	***	0.069	0.097	***	0.019	0.013		0.002	-0.110	***	-0.032	0.058	***	0.019	0.212	***	0.083	0.165	***	0.059	0.153	***	0.060

4. 分析結果の考察

○　情報処理やウェブデザイナーに興味を持つ者の特色は、情報収集能力が高かったり、手先が器用だったりする。反面、内向的な傾向にあり、人間関係を築くことに対しては積極的とはいえない。

○　ホテルマンに興味を持つ者の特色は、奉仕性が高く、コミュニケーション力が高い傾向にある。反面、手先の器用さなどの技術力は高くない。

○　トラック運転手に興味を持つ者の特色は、手先が器用などの技術的な自信を持つほか特色は見当たらない。自動車修理工にも同じような傾向がみられるが、社会奉仕性が幾分高い傾向にある。

○　介護士、看護師に興味を持つ者の特色は、社会貢献に対する志向性が極めて高い。また、奉仕性やコミュニケーション能力も高い。反面、流行や情報収集といったものには関心が薄く、人に認められたいといった承認欲求も高くない。カウンセラーに興味を持つ者も同様な傾向がみられるが、カウンセラーの場合は、情報収集力や論理的思考が幾分高い傾向にある。

○　研究者に興味を持つ者(リケジョ女子）の特色は、情報収集力や社会興味が高く、手先が器用であり論理派的な傾向がある。反面、協調性よりも一匹狼といったところがあり、どちらかといえば内向的な面が窺える。

○　販売員に興味を持つ者の特色は、情報力、コミュニケーション力、手先の器用さ、社会性、協調性などの志向性に突出したものは見当たらないが、何にでも対応できるような性格、志向性があるようである。

○　保育士に興味を持つ者の特色は、社会貢献、奉仕、コミュニケーション、協調性が高い。また、一人で行動することよりグループでの行動を好む。

5. まとめ

今回の分析は「職業レディネス・テスト」のデータから、高校生の職業興味と志向性の関係を検証した。その結果、一部の職種で両者に強い相関が確認できた。とりわけ介護職・看護職・保育士などに興味を示す者が、その職務に必要とされるであろう社会貢献度やコミュニケーション力を持つことが分かった。

「職業レディネス・テスト」検査マニュアルには、検査結果は「中学生、高校生は、心身ともに発達の途上にあり、職業興味は変化するものであり、実施した時点での興味を切り取って示したものに他ならないものである。」と記されている。とはいえ今回の分析から高校生の職業興味と特定の志向性に関連が見つかったことに意義があった。それは「職業興味」と「志向性」が不可分であり、その“意識の結びつき”が、就職活動、職業選択などの行動に深く関わるものと認識できたことである。

それゆえ、キャリア教育や人材教育では、この大切な“意識の結びつき”を尊重し、職業観の醸成、社会的自立、アイデンティティの形成に繋げることが必要であり、また“意識の結びつき”を明示的な方法で若者自身に認識させることも必要と考える。

こうしたキャリア教育や人材教育を実現させるためには、テクニカルな手法として適性検査の判定結果（数値の変化）などを有効に活用することも一つの考え方である。

企業の人材教育や学校のキャリア教育の現場における、職業興味、性格検査、能力検査などの適性検査ツールの定期的な活用を提案しておきたい。

ともあれ企業の人事管理担当者、学校での進路指導担当者には、若者の「職業意識の希薄化」に対峙するのではなく、若者の「職業意識の醸成」に力点を注ぎ、「なりたい自分」を支援する人材育成、キャリア教育を推し進めてほしい。

第５章　分析編２　中高生の職業レディネスに対する景気の影響

水落正明（南山大学）

1. ねらい

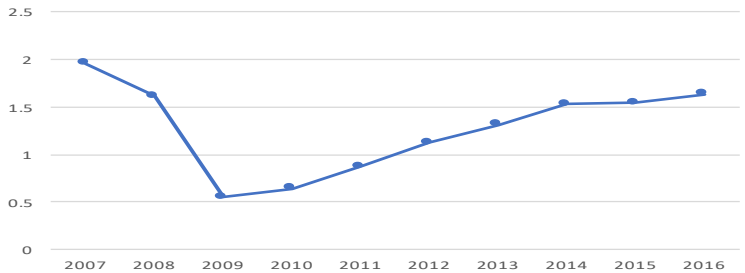
我が国では近年、経済成長の低迷、個人消費の伸び悩みなどが続き、景気は良いとは言えない。こうした景気の悪化は、労働市場において労働需要を減少させることになる。これは、学生など若者にとって、将来、希望の仕事に就ける可能性を引き下げるものであり、中高生の進学意識などに影響すると考えられる。具体的には、景気が悪くなると、希望の仕事に就ける可能性が低くなるため、より高い人的資本（能力）の蓄積を求めて進学意識（需要）が高くなると考えられている。

こうした景気の状況を測る指標として、労働市場の状態が用いられることが多く、荒井(1998)、矢野・濱中（2006）などの研究によって、景気と大学進学の関係が分析されている。荒井（1998）は日本の時系列データを用いて、有効求人倍率が高くなると女子の大学進学率が低下し、失業率が高くなると進学率が上昇することを明らかにしている。矢野・濱中（2006）も、同じく日本の時系列データを用いて、失業率が高まると大学進学の需要が高まることを明らかにしている。いずれも景気が良くなる（悪くなる）と大学進学が抑制（促進）されることが確認されている。

このように景気と大学進学に関する分析は行われているが、そうした進学意識の裏にある職業意識はどのような影響を受けているだろうか。進学は将来の仕事を想定したものであるため、何らかの影響があると考えられる。こうした観点からの研究は現時点では見当たらない。そこで本章では、景気が中高生の職業意識に与える影響を実証的に明らかにする。景気の指標としては、荒井（1998）と同様に有効求人倍率を用いることとする。中高生の職業意識には、愛知県の中高生を対象に行われた職業レディネス・テスト（2007～2016）の個票情報から、職業興味の標準得点などを用いる。

ここで、愛知県の 2007～2016 年の有効求人倍率を図 1 に示した。有効求人倍率は求職者数で求人数を割って求められる数値で、1 を越えると求職者に対して求人数が相対的に多いことを意味し、労働供給者にとって労働市場の状態は良いと捉えられる。つまり景気が良いということである。図 1 を見てわかるように、この時期はリーマンショックに起因する労働市場の悪化と、その後の改善という大きな変化を経験しており、中高生の職業意識に与える影響を見る上でデータ的に望ましい状況にある。

図 1 愛知県の有効求人倍率



資料：愛知労働局「最近の雇用情勢」より作成

2. 分析方法

2.1 変数

本章では、景気が中高生の職業レディネスに与える影響を明らかにするために、回帰分析を行う。

回帰モデルの従属変数には職業レディネス・テストの職業興味（A 検査)、基礎的志向性（B 検査)、職務遂行の自信度（C 検査）の標準得点および分化度を用いる。

標準得点の分析では、両検査で領域ごとに分析する。すなわち、A と C 検査では、現実的領域（R)、研究的領域（I)、芸術的領域（A)、社会的領域（S)、企業的領域（E)、慣習的領域（C）を用い、B 検査では　対情報志向（D)、対人志向（P)、対物志向（T）を用いる。

もう一種類の指標である分化度とは、A 検査で最も得点の高い領域と最も得点の低い領域の差をとったもので、この差が大きいほど職業的な意識の発達が進んでいるとされている。その差を 3 段階に分けるのが一般的で、分化度が低い（30 点未満)、分化度が中程度（30～50 点)、分化度が高い（51 点以上）のようになる（労働政策研究・研修機構, 2007 など参照)。これらにそれぞれ 1、2、3 という数値を割り当て分析に使用する。

独立変数には景気の指標として、調査年の愛知県の有効求人倍率を用いる。そのほかのコントロール変数としては、学年、性別、設立主体（公立か私立)、学科を用いる。ただし、中学生のデータでは学科に多様性がないため、学科変数を使用していない。さらに、労働市場の状況だけではとらえきれない、景気が職業意識等に与える各調査年の影響（傾向）をコントロールするために、トレンド項を 2 次項まで使用する。

2.2 推定方法と記述統計

以上の変数を用いて回帰分析を行うが、職業レディネス・テストのデータは、学校ごとにデータが収集されており、誤差項が学校ごとに相関を持っていると考えられる。すなわち、通常の回帰分析が想定しているような理想的な誤差項の分布になっていない可能性が高い。そうしたデータに通常の回帰分析を適用した場合、正しい推定結果が得られないことが知られている。そこで、その影響を取り除くためにマルチレベル推定を用いる[1]。なお、本章では学校間で切片が異なるランダム・インターセプトによる推定を行う。

本章の分析では、従属変数の種類に応じて以下のようなモデルを使用する。

(1) A、B、C 検査の標準得点の分析

標準得点は連続量であるため、マルチレベル・線形モデルを使用する。

(2) 分化度に関する分析

分化度は 1、2、3 の 3 段階の順序のある質的変数であるため、マルチレベル・順序ロジットモデルを使用する。

推定は男女別、中学生・高校生別に行う。なお、本文中では有効求人倍率の推定結果のみ図示し、その他の独立変数の結果については付録の付表 1～12 を参照されたい。使用するデータについて、表 1 に中学生の記述統計量、表 2 に高校生の記述統計量を示した。

---

1 マルチレベル推定の詳細については三輪・林（2014）等を参照されたい。

表 1 記述統計量（中学生）

		男子（N＝33217）				女性（N＝31453）			
		平均	標準偏差	最小	最大	平均	標準偏差	最小	最大
職業興味	現実的領域（R）	47.87	28.15	3	99	50.95	27.56	18	100
（A検査）	研究的領域（I）	49.14	28.72	7	99	49.75	29.05	16	100
	芸術的領域（A）	51.22	28.72	7	100	53.32	28.97	2	99
	社会的領域（S）	48.92	28.37	9	100	47.47	29.10	2	99
	企業的領域（E）	50.37	29.02	5	100	52.50	29.51	4	100
	慣習的領域（C）	51.37	28.02	10	100	46.57	28.36	9	100
基礎的志向性	対情報志向（D）	50.97	28.24	1	100	50.64	28.44	1	100
（B検査）	対人志向（P）	53.95	29.16	1	100	48.52	29.41	1	99
	対物志向（T）	50.31	28.41	1	99	51.33	28.44	1	99
職務遂行の自信度	現実的領域（R）	47.84	28.50	4	99	51.70	28.09	19	100
（C検査）	研究的領域（I）	48.44	28.91	9	99	51.17	28.38	20	100
	芸術的領域（A）	50.96	29.37	9	100	55.55	28.75	4	99
	社会的領域（S）	50.03	29.03	9	100	50.59	29.86	2	99
	企業的領域（E）	50.90	29.06	8	100	53.08	28.93	8	100
	慣習的領域（C）	51.91	28.30	11	100	48.72	28.93	10	100
有効求人倍率		1.32	0.39	0.55	1.95	1.29	0.40	0.55	1.95
学年	1年	0.12	0.32	0	1	0.12	0.32	0	1
	2年	0.73	0.44	0	1	0.72	0.45	0	1
	3年	0.15	0.36	0	1	0.16	0.37	0	1
設立	公立	0.94	0.24	0	1	0.94	0.23	0	1
	私立	0.06	0.24	0	1	0.06	0.23	0	1

表 2 記述統計量（高校生）

		男子（N=28264）				女子（N=27474）			
		平均	標準偏差	最小	最大	平均	標準偏差	最小	最大
職業興味	現実的領域（R）	53.25	28.32	4	99	52.32	27.81	18	100
（A検査）	研究的領域（I）	47.62	27.81	10	100	47.51	27.23	20	100
	芸術的領域（A）	52.19	29.14	6	100	56.08	28.96	3	99
	社会的領域（S）	49.41	28.84	8	100	47.38	29.02	2	99
	企業的領域（E）	50.12	28.80	5	100	52.78	29.38	5	100
	慣習的領域（C）	52.12	27.98	11	100	53.03	29.36	8	100
基礎的志向性	対情報志向（D）	48.81	28.16	1	100	49.35	27.72	1	100
（B検査）	対人志向（P）	53.92	28.92	1	100	49.05	29.25	1	99
	対物志向（T）	52.75	28.06	1	99	52.55	28.19	1	100
職務遂行の自信度	現実的領域（R）	50.26	28.85	4	99	50.72	27.93	18	100
（C検査）	研究的領域（I）	44.69	27.84	11	99	46.79	26.71	22	100
	芸術的領域（A）	52.55	29.54	9	100	58.71	28.70	7	100
	社会的領域（S）	48.71	29.10	8	100	48.88	29.59	2	99
	企業的領域（E）	49.66	28.93	9	100	52.61	28.92	10	100
	慣習的領域（C）	48.53	27.99	10	99	49.84	29.80	7	99
有効求人倍率		1.27	0.43	0.55	1.95	1.30	0.42	0.55	1.95
学年	1年	0.55	0.50	0	1	0.68	0.47	0	1
	2年	0.38	0.49	0	1	0.25	0.43	0	1
	3年	0.07	0.25	0	1	0.08	0.27	0	1
設立	公立	0.70	0.46	0	1	0.80	0.40	0	1
	私立	0.30	0.46	0	1	0.20	0.40	0	1
学科	普通（総合）	0.31	0.46	0	1	0.37	0.48	0	1
	商業	0.12	0.33	0	1	0.47	0.50	0	1
	工業	0.45	0.50	0	1	0.06	0.23	0	1
	農林	0.07	0.25	0	1	0.06	0.24	0	1
	定時	0.02	0.13	0	1	0.02	0.12	0	1
	特別支援	0.00	0.07	0	1	0.00	0.06	0	1
	その他	0.03	0.17	0	1	0.01	0.12	0	1

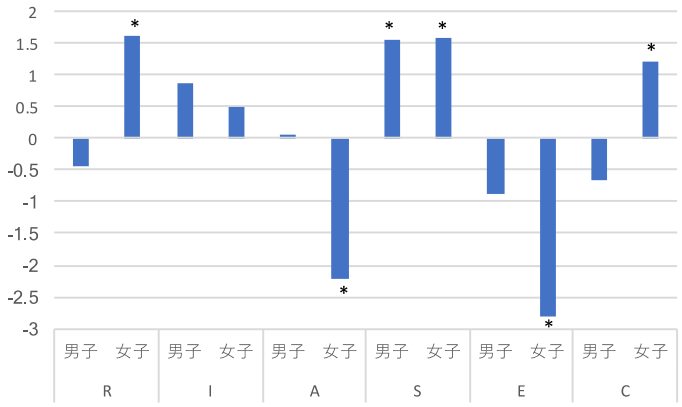
3. 中学生の分析

3.1　職業興味（A 検査）の標準得点に関する分析

A 検査の 6 つの領域ごとに、標準得点に対する有効求人倍率の影響を図２にまとめた。「＊」の印がついているところが、統計的に有意（10%水準）な領域である。つまり、有効求人倍率の影響があることを示している。例えば、現実的領域（R）では女子のみ有効求人倍率に影響力があることを示されている。さらに、グラフからわかるように正の値（約 1.5）をとっており、これは、有効求人倍率が 1 上がると､女子の現実的領域の標準得点が約 1.5 点上がることを意味している。ただし、有効求人倍率は図１で見たように、0.5～2 の範囲を変動しており、1 の変化は少し大き過ぎる変化と見るべきである。

有意な結果を見ると、女子は研究的領域（I）以外の 5 つの領域で有意であるのに対して、男子は社会的領域（S）の 1 領域のみで有意である。すなわち、女子の職業興味は、男子に比べて労働市場の状態の影響を受けやすいことがわかる。また影響の方向性については、労働市場の状態が良くなると、現実的領域（R)、社会的領域（S)、慣習的領域（C）では得点が高くなり、芸術的領域（A)、企業的領域（E）では逆に低くなることがわかる。労働市場の変化に対して、職業興味は同じ方向に変化するのではなく、多様な変化をすることがわかる。

図２　A 検査の標準得点に対する有効求人倍率の影響（中学生）

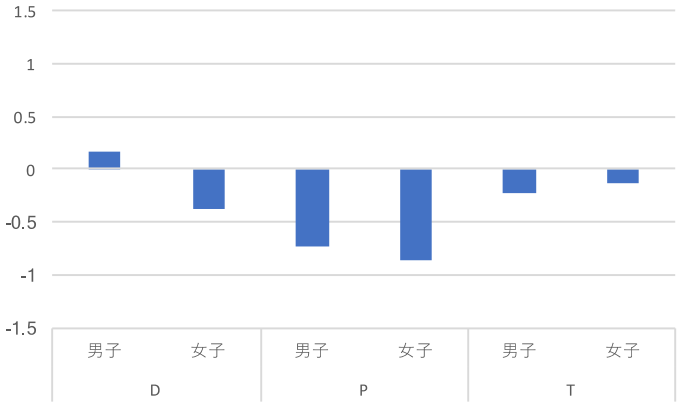


＊は統計的に有意（10%水準）であることを示している。

3.2　基礎的志向性（B 検査）の標準得点に関する分析

B 検査の標準得点に対する有効求人倍率の影響を図 3 にまとめた。図を見てわかるように、有意なものは一つもない。つまり、基礎的志向性に対して、景気は影響していないことがわかる。基礎的志向性は、基本的な部分の意識であることから、外部要因の影響を受けにくいと言えるが、後で見る高校生の分析ではある程度の影響を受けていることが示されており、年齢で影響の有無に違いあると言える。なお有意ではないが、ほとんどの結果が負の値を示している。つまり、景気が良くなると、基礎的志向性の得点は下がる可能性があることが示唆されている。

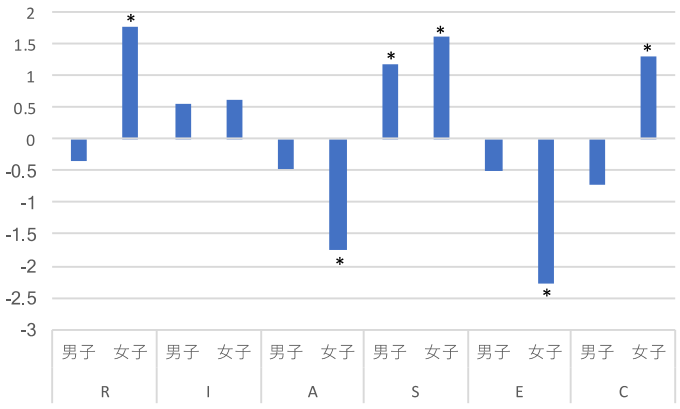
図 3　B 検査の標準得点に対する有効求人倍率の影響（中学生）



3.3　職務遂行の自信度（C 検査）の標準得点に関する分析

C 検査の標準得点に関する推定結果を図 4 に示した。有意なものは、A 検査とまったく同じ結果になっている。すなわち、女子は 5 つの領域で有意であり、一方男子は、社会的領域（S）の 1 領域のみで有意である。影響の方向性もまったく同じであり、景気が良くなると、現実的領域（R）、社会的領域（S）、慣習的領域（C）では得点が高くなり、芸術的領域（A）、企業的領域（E）では逆に低くなっている。

図 4　C 検査の標準得点に対する有効求人倍率の影響（中学生）



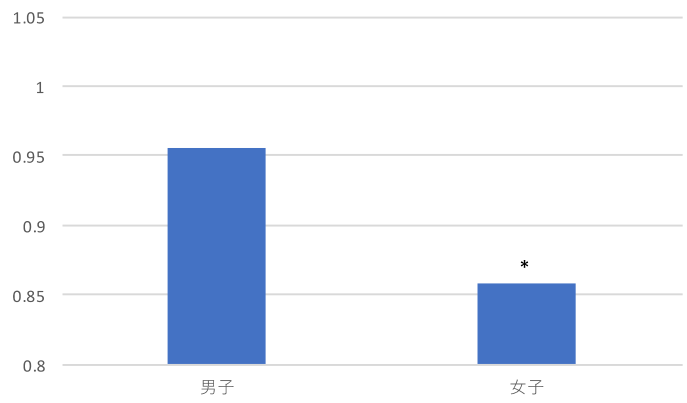
＊は統計的に有意（10%水準）であることを示している。

3.4　分化度の分析

職業興味で最も得点の高い領域と最も得点の低い領域の差をとったものを分化度と呼び、差が大きいほど職業的な意識の発達が進んでいるとされている。その差を次のように 3 段階に分けるのが一般的で、分化度が低い（30 点未満）、分化度が中程度（30～50 点）分化度が高い（51 点以上）のようになる。これらにそれぞれ 1、2、3 という数値を割り当て、マルチレベル・順序ロジットによる推定を行う。

この分化度に対する有効求人倍率の影響をオッズ比として図 5 に示した。順序ロジットによる推定では、推定係数の意味をとらえることは困難なためオッズ比を求めている[2]。図を見ると、女子のみ有意であることがわかる。また、オッズ比は約 0.85 であり、これは有効求人倍率が 1 上昇すると、分化度が上昇するオッズが 0.85 倍になることを示している。オッズ比は 1 を基準に 1 より小さい場合は、従属変数が低くなる確率が高まることを意味しており、ここでは、有効求人倍率が高まると、分化度が低くなることを意味している。別の言い方をすれば、景気が良くなると、職業的な意識の発達が抑制されるとも言える。

図 5　分化度に対する有効求人倍率の影響（中学生、オッズ比）



＊は統計的に有意（10%水準）であることを示している。

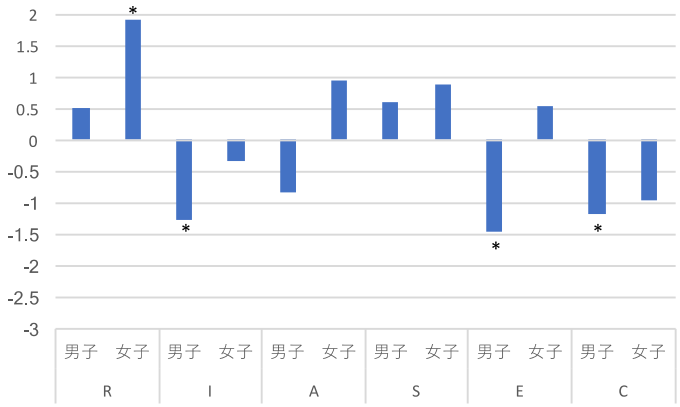
[2] コイントスを例にすると「表が出る確率/裏が出る確率」をオッズと呼ぶ。コイン A とコイン B を使ったトスでそれぞれオッズが計算される。この 2 つのオッズの比をとったものをオッズ比と呼ぶ。この場合、オッズは等しいはずなのでオッズ比は 1 になると考えられる。もしコインに何らかの仕掛けがあればオッズは異なり、オッズ比は 1 を上回ったり下回ったりする。「コイン A のオッズ/コイン B のオッズ」が 1 を上回ればコイン A は表が出やすく、1 を下回ればコイン A は表が出にくいということがわかる。実際の分析での使用例は畑農・水落（2017）などを参照されたい。

4.　高校生の分析

4.1　職業興味（A 検査）の標準得点に関する分析

A 検査の標準得点に対する有効求人倍率の影響を図 6 にまとめた。有意な結果について見ると、男子は研究的領域（I）、企業的領域（E）、慣習的領域（C）で有意であり、その効果はすべて職業意識を低くしている。一方、女子は現実的領域（R）のみ有意であり、職業意識を高めていることがわかる。中学生の分析では女子の方が労働市場の影響を受けやすいことが示されていたが、高校生では男子の方が影響を受けやすいことがわかる。

図 6　A 検査の標準得点に対する有効求人倍率の影響（高校生）

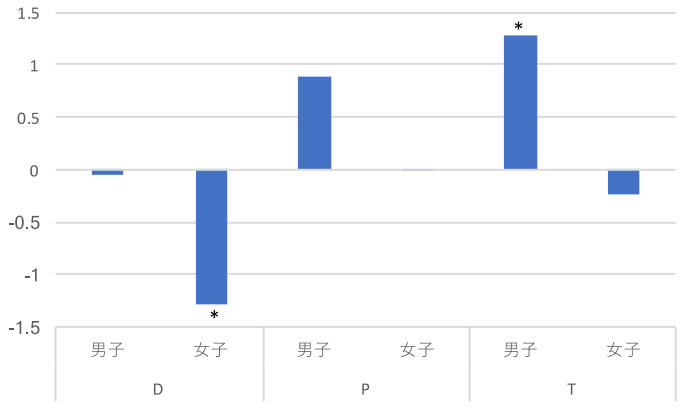


＊は統計的に有意（10%水準）であることを示している。

4.2　基礎的志向性（B 検査）の標準得点に関する分析

B 検査の標準得点に対する有効求人倍率の影響について図 7 にまとめた。有意なものに注目すると、男子では対物志向（T）が高くなり、女子では対情報志向（D）が低くなっていることがわかる。中学生では一つも有意な結果が得られなかったのに対し、高校生はある程度の影響を受けることが示唆されている。

図 7　B 検査の標準得点に対する有効求人倍率の影響（高校生）

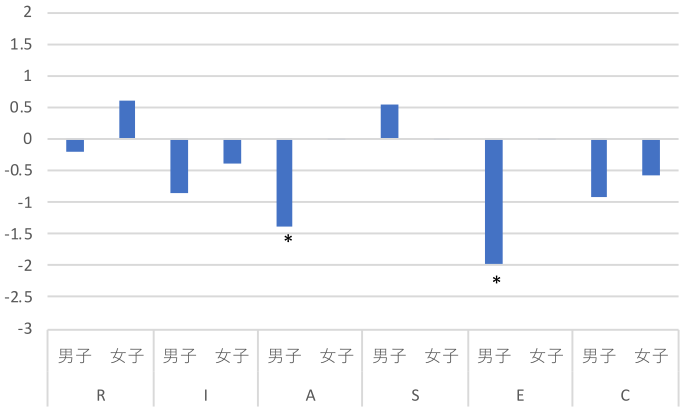


＊は統計的に有意（10%水準）であることを示している。

4.3　職務遂行の自信度（C 検査）の標準得点に関する分析

C 検査の標準得点に対する有効求人倍率の影響を図 8 にまとめた。有意になっているものは男子の芸術的領域（A)、企業的領域（E）であり、その効果は、有効求人倍率が上昇すると、この領域の職務遂行の自信度が低下することを意味している。女子では、有意な領域は一つもなかった。

図 8　C 検査の標準得点に対する有効求人倍率の影響（高校生）

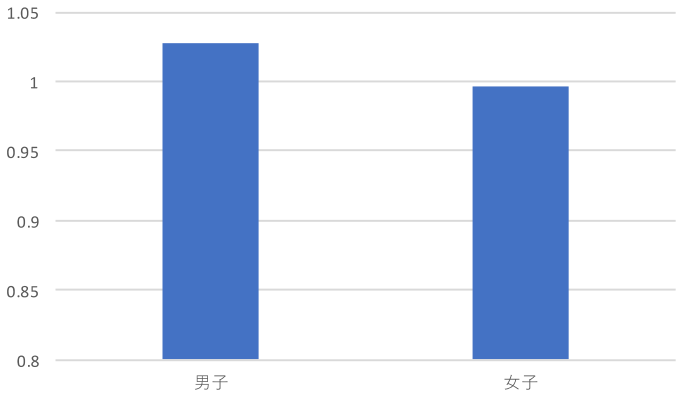


＊は統計的に有意（10%水準）であることを示している。

4.4　分化度の分析

分化度に関する推定結果を図 9 にまとめた。男女とも有意ではなく、高校生については、労働市場の状態と職業意識の分化には関連は見られないことがわかる。

図 9　分化度に対する有効求人倍率の影響（高校生、オッズ比）



5. まとめ

本章では、愛知県の中高生を対象に行われた職業レディネス・テストのデータ（2007～2016）を使って、職業興味や職務遂行の自信度、基礎的志向性と景気との関連性について分析した。

中学生については、職業興味と職務遂行の自信度が景気からの影響を受けていることが明らかになった。ただし男女で影響は対称的であり、女子の職業興味は男子に比べて、労働市場の影響を受けやすいことが示された。これは、小学校から続くこの時期において心理的発達が女子の方が早いことが一因にあると考えられる。女子の結果について領域ごとに見ると、労働市場の状態が良くなると、現実的領域（R)、社会的領域（S)、慣習的領域（C）では得点が高くなり、芸術的領域（A)、企業的領域（E）では逆に低くなっていた。これらは職業興味と職務遂行の自信度の双方で観察された。労働市場の状態が良いことは景気が良いことを意味しており、景気が良くなると、具体的には技術者・機械オペレーター（R)、教員・販売員（S)、事務員・会計士（C）など一般的な職業に対する興味が高まり、ミュージシャン・デザイナー（A)、放送ディレクター・会社経営者（E）といったやや特殊な職業に対する興味が低くなる。景気が良くなると、将来、希望の仕事に就きやすくなると予想すれば逆の結果になるとも考えられるが、景気が良いことで一般的な仕事に就きやすくなると考えた結果とも言える。また、景気の分化度への影響は女子のみで確認されたが、景気が良くなると職業意識の発達が弱まるという結果であった。好景気の時期ほど、職業に対する意識づけを強化する必要があることが示唆されている。

一方、基礎的志向性については、労働市場からの影響が確認できなかったことは男女で共通している。ただし、ほとんどの領域で影響が負の方向であることが示唆されており、労働市場の状態が良くなると、普段の興味や行動の水準が低下する可能性がある。これは、労働市場の状態が良くなると、将来の就職について楽観的になることで、人的資本を高めようとはしなくなるととらえることもできる。

高校生の分析では、職業興味と職務遂行の自信度は景気からの影響をやや受けやすいことがわかった。また、中学生とは逆に男子が景気の影響を受けやすいことが特徴的である。性別役割分業意識の強い我が国において、成人に近い高校生で男子が影響を受けた可能性が考えられる。職業興味について男子の研究的領域（I)、企業的領域（E）慣習的領域（C）で景気が良くなると得点が低くなっている。具体的な職業で見ると、研究者・学者（I)、放送ディレクター・会社経営者（E)、事務員・会計士（C）への興味が低下する。中学生の女子ほどはっきりとした傾向は読みとれないが、好景気に研究者や学者を志す大学院進学者が減少することは知られており、高校生の段階でもそのような傾向が観察されることがわかった。このことは、通常の会社員や会社経営者への興味が高まった結果と考えられてきたが、そうした分野への興味も同時に低下するというのが本章の分析結果である。分化度については男女とも景気の影響は確認されておらず、高校生の職業意識の発達は比較的安定したものであることがわかった。

基礎的志向性については、男女とも景気の影響をある程度、受けることが明らかになっている。中学生より労働市場に近い立場として、基礎的な志向性も景気から影響を受けたものと考えられる。

総じて、本章の目的であった景気と中高生の職業意識には関連があることが確認できた。特に景気が良くなると、職業に関する意識が弱まることが見出されている。このことは、景気の良い時ほど、職業に関する意識づけが必要になることを意味しており、適切な対応が求められる。

参考文献

荒井一博（1998）「女子の大学進学率の時系列分析」『一橋論叢』119（6）：656-970.
畑農鋭矢・水落正明（2017）『データ分析をマスターする 12 のレッスン』有斐閣.
三輪哲・林雄亮（2014）『SPSS による応用多変量解析』オーム社.
矢野眞和・濱中淳子（2006）「なぜ、大学に進学しないのか–顕在的需要と潜在的需要の決定要因–」『教育社会学研究』79：85-104.
労働政策研究・研修機構（2007）『中学生、高校生の職業レディネスの発達―職業レディネス・テスト標準化調査の分析を通して―』労働政策研究報告書 No.87.

付録

付表 1〜12 は本章で示した有効求人倍率のほか、その他の独立変数の結果も示している。「尤度比」は通常のモデルとマルチレベル・モデルの差を示しており、いずれの分析でも 1%水準でマルチレベル・モデルが支持されている。

付表 1　中学生の A 検査（R、I、A）の推定結果

	R				I				A			
	男子		女子		男子		女子		男子		女子	
	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値
有効求人倍率	-0.433	0.510	1.599	0.013	0.862	0.198	0.498	0.459	0.040	0.952	-2.230	0.001
トレンド項（1次）	1.518	0.000	0.713	0.061	1.315	0.001	0.946	0.018	0.778	0.046	0.000	0.999
トレンド項（2次）	-0.134	0.000	-0.017	0.623	-0.136	0.000	-0.076	0.034	-0.083	0.017	-0.034	0.331
学年（ベース：2年）												
1年	-0.342	0.635	2.197	0.002	3.158	0.000	3.725	0.000	0.505	0.471	3.380	0.000
3年	-1.452	0.060	1.013	0.167	-1.700	0.029	0.337	0.663	2.235	0.002	-0.199	0.777
設立（ベース：公立）												
私立	-10.107	0.000	1.206	0.558	6.510	0.001	13.599	0.000	-2.046	0.247	-8.075	0.000
定数項	46.068	0.000	44.810	0.000	45.723	0.000	45.795	0.000	49.909	0.000	58.058	0.000
観測数	33217		31453		33217		31453		33217		31453	
グループ数	154		147		154		147		154		147	
尤度比	221.00	0.000	161.84	0.000	246.02	0.000	134.51	0.000	161.61	0.000	63.15	0.000

付表 2　中学生の A 検査（S、E、C）の推定結果

	S				E				C			
	男子		女子		男子		女子		男子		女子	
	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値
有効求人倍率	1.551	0.020	1.572	0.021	-0.885	0.191	-2.797	0.000	-0.653	0.315	1.209	0.065
トレンド項（1次）	2.270	0.000	0.903	0.026	1.431	0.000	0.625	0.125	0.436	0.252	0.718	0.065
トレンド項（2次）	-0.190	0.000	-0.076	0.038	-0.163	0.000	-0.080	0.030	-0.020	0.565	-0.069	0.049
学年（ベース：2年）												
1年	1.042	0.153	2.115	0.006	0.481	0.515	1.318	0.083	0.630	0.359	1.469	0.038
3年	1.178	0.131	0.792	0.334	1.134	0.151	3.054	0.000	0.892	0.216	3.389	0.000
設立（ベース：公立）												
私立	-0.336	0.868	-4.475	0.066	2.780	0.173	-0.975	0.666	0.539	0.758	0.706	0.724
定数項	41.162	0.000	43.504	0.000	49.365	0.000	55.238	0.000	49.945	0.000	42.811	0.000
観測数	33217		31453		33217		31453		33217		31453	
グループ数	154		147		154		147		154		147	
尤度比	203.29	0.000	220.23	0.000	290.95	0.000	167.37	0.000	156.93	0.000	163.83	0.000

付表 3　中学生の B 検査の推定結果

	D				P				T			
	男子		女子		男子		女子		男子		女子	
	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値
有効求人倍率	0.173	0.792	-0.376	0.566	-0.737	0.273	-0.859	0.201	-0.221	0.733	-0.132	0.838
トレンド項（1次）	-0.031	0.936	-0.865	0.026	0.753	0.055	-0.714	0.072	0.926	0.014	0.434	0.257
トレンド項（2次）	0.031	0.373	0.106	0.002	-0.037	0.295	0.059	0.101	-0.071	0.035	0.019	0.580
学年（ベース：2年）												
1年	-0.120	0.863	2.023	0.004	2.154	0.002	2.205	0.001	2.370	0.000	3.896	0.000
3年	2.835	0.000	3.945	0.000	0.979	0.175	0.006	0.993	-0.813	0.221	0.108	0.873
設立（ベース：公立）												
私立	2.863	0.113	5.565	0.004	-3.159	0.060	-3.651	0.041	-3.170	0.030	-1.396	0.412
定数項	48.683	0.000	50.686	0.000	51.615	0.000	51.362	0.000	48.349	0.000	48.069	0.000
観測数	33217		31453		33217		31453		33217		31453	
グループ数	154		147		154		147		154		147	
尤度比	189.97	0.000	117.79	0.000	116.76	0.000	62.73	0.000	71.62	0.000	86.00	0.000

付表 4　中学生の C 検査（R、I、A）の推定結果

	R				I				A			
	男子		女子		男子		女子		男子		女子	
	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値
有効求人倍率	-0.353	0.590	1.757	0.006	0.563	0.400	0.608	0.353	-0.475	0.482	-1.743	0.008
トレンド項（1次）	0.929	0.015	0.578	0.129	0.652	0.097	0.544	0.161	0.066	0.867	-0.501	0.196
トレンド項（2次）	-0.087	0.011	-0.015	0.652	-0.083	0.018	-0.054	0.126	-0.016	0.651	0.015	0.663
学年（ベース：2年）												
1年	0.611	0.368	2.331	0.001	3.055	0.000	3.866	0.000	1.712	0.014	4.669	0.000
3年	-0.154	0.827	1.678	0.015	-0.974	0.196	0.669	0.362	1.843	0.011	-0.781	0.259
設立（ベース：公立）												
私立	-8.364	0.000	3.121	0.081	7.037	0.000	11.732	0.000	-2.198	0.188	-8.072	0.000
定数項	46.932	0.000	45.936	0.000	46.822	0.000	48.424	0.000	51.669	0.000	60.563	0.000
観測数	33217		31453		33217		31453		33217		31453	
グループ数	154		147		154		147		154		147	
尤度比	110.41	0.000	105.54	0.000	198.46	0.000	108.44	0.000	102.51	0.000	69.34	0.000

付表５　中学生のＡ検査（S、E、C）の推定結果

	S				E				C			
	男子		女子		男子		女子		男子		女子	
	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値
有効求人倍率	1.167	0.084	1.612	0.021	-0.510	0.447	-2.280	0.001	-0.718	0.269	1.286	0.054
トレンド項（1次）	1.727	0.000	0.906	0.030	0.526	0.180	-0.037	0.925	0.136	0.720	0.353	0.373
トレンド項（2次）	-0.143	0.000	-0.069	0.066	-0.080	0.023	-0.017	0.626	-0.007	0.841	-0.051	0.156
学年（ベース：2年）												
1年	0.893	0.219	1.803	0.023	1.474	0.035	1.776	0.013	0.563	0.401	0.325	0.653
3年	2.540	0.001	1.294	0.121	1.154	0.113	2.094	0.005	2.097	0.003	3.360	0.000
設立（ベース：公立）												
私立	0.902	0.639	-1.662	0.499	2.923	0.090	0.396	0.842	3.347	0.039	4.855	0.018
定数項	43.744	0.000	46.094	0.000	51.240	0.000	56.577	0.000	51.499	0.000	46.228	0.000
観測数	33217		31453		33217		31453		33217		31453	
グループ数	154		147		154		147		154		147	
尤度比	184.15	0.000	211.01	0.000	161.83	0.000	112.50	0.000	170.43	0.000	164.29	0.000

付表６　中学生の分化度の推定結果

	男子		女子	
	オッズ比	p値	オッズ比	p値
有効求人倍率	0.956	0.319	0.859	0.001
トレンド項（1次）	1.006	0.823	0.950	0.050
トレンド項（2次）	0.999	0.540	1.004	0.081
学年（ベース：2年）				
1年	0.885	0.006	1.000	0.990
3年	1.197	0.000	1.017	0.674
設立（ベース：公立）				
私立	1.284	0.013	1.560	0.000
閾値1	-2.024		-2.428	
閾値2	-0.359		-0.788	
観測数	33217		31453	
グループ数	154		147	
尤度比	97.92	0.000	5.63	0.0088

付表 7　高校生の A 検査（R、I、A）の推定結果

	R				I				A			
	男子		女子		男子		女子		男子		女子	
	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値
有効求人倍率	0.493	0.403	1.900	0.002	-1.266	0.031	-0.322	0.597	-0.836	0.175	0.931	0.144
トレンド項（1次）	1.072	0.007	0.869	0.031	-0.006	0.989	0.170	0.667	0.740	0.073	0.840	0.043
トレンド項（2次）	-0.086	0.015	-0.080	0.028	-0.007	0.849	-0.035	0.317	-0.099	0.007	-0.135	0.000
学年（ベース：1年）												
2年	1.647	0.092	0.195	0.841	-0.644	0.493	-0.931	0.325	-0.089	0.924	-2.562	0.015
3年	1.945	0.095	3.836	0.002	-1.579	0.161	0.060	0.960	-1.326	0.242	-2.631	0.048
設立（ベース：公立）												
私立	-7.615	0.000	-3.936	0.033	-2.380	0.192	-4.563	0.009	-2.606	0.099	-5.088	0.023
学科（ベース：普通（総合））												
商業	-6.325	0.007	3.155	0.061	1.389	0.477	0.622	0.696	3.421	0.042	2.916	0.168
工業	7.621	0.001	19.002	0.000	4.912	0.007	13.053	0.000	3.304	0.031	14.117	0.000
農林	6.443	0.073	6.229	0.017	4.562	0.119	2.818	0.254	0.123	0.960	3.173	0.339
定時	-4.886	0.089	1.548	0.520	3.279	0.183	5.387	0.019	4.084	0.066	2.441	0.393
特別支援	6.250	0.125	13.803	0.000	8.860	0.015	9.619	0.006	6.015	0.078	5.687	0.166
その他	4.460	0.144	7.299	0.004	3.600	0.165	10.279	0.000	6.046	0.008	8.340	0.006
定数項	48.384	0.000	45.644	0.000	48.427	0.000	48.248	0.000	52.465	0.000	54.484	0.000
観測数	28264		27474		28264		27474		28264		27474	
グループ数	72		73		72		73		72		73	
尤度比	769.83	0.000	205.69	0.000	341.64	0.000	217.15	0.000	213.94	0.000	294.32	0.000

付表 8　高校生の A 検査（S、E、C）の推定結果

	S				E				C			
	男子		女子		男子		女子		男子		女子	
	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値
有効求人倍率	0.595	0.329	0.891	0.167	-1.448	0.017	0.545	0.402	-1.188	0.044	-0.964	0.132
トレンド項（1次）	2.049	0.000	1.175	0.005	1.423	0.000	1.322	0.002	0.361	0.361	-0.745	0.073
トレンド項（2次）	-0.164	0.000	-0.125	0.001	-0.155	0.000	-0.173	0.000	-0.007	0.842	0.050	0.176
学年（ベース：1年）												
2年	0.824	0.355	-0.544	0.582	-0.102	0.912	-2.622	0.011	-1.493	0.112	0.509	0.640
3年	2.076	0.057	1.211	0.333	0.536	0.632	-1.050	0.422	0.069	0.951	8.288	0.000
設立（ベース：公立）												
私立	-1.891	0.182	-5.340	0.003	-5.084	0.001	-4.146	0.040	-1.851	0.309	-2.629	0.319
学科（ベース：普通（総合））												
商業	3.363	0.026	2.277	0.154	3.850	0.023	5.670	0.002	11.795	0.000	12.218	0.000
工業	-1.622	0.231	-6.730	0.001	-1.424	0.359	5.568	0.014	6.242	0.001	6.407	0.026
農林	-0.985	0.648	-1.142	0.644	-2.323	0.349	1.618	0.576	0.580	0.842	4.673	0.245
定時	0.861	0.674	-5.275	0.025	-2.982	0.180	-1.137	0.663	2.335	0.342	-3.830	0.245
特別支援	10.812	0.001	-1.547	0.668	-0.838	0.805	-5.937	0.125	19.086	0.000	9.709	0.034
その他	3.700	0.074	0.518	0.836	4.919	0.032	-0.080	0.977	0.576	0.824	-3.930	0.261
定数項	44.571	0.000	45.526	0.000	52.767	0.000	49.377	0.000	49.039	0.000	48.629	0.000
観測数	28264		27474		28264		27474		28264		27474	
グループ数	72		73		72		73		72		73	
尤度比	142.55	0.000	142.94	0.000	198.3	0.000	250.64	0.000	384.92	0.000	1170.7	0.000

付表 9　高校生の B 検査の推定結果

	D				P				T			
	男子		女子		男子		女子		男子		女子	
	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値
有効求人倍率	-0.045	0.940	-1.285	0.039	0.877	0.151	-0.020	0.975	1.275	0.031	-0.241	0.701
トレンド項（1次）	0.231	0.562	-0.833	0.039	1.762	0.000	-0.280	0.509	0.831	0.035	0.335	0.410
トレンド項（2次）	0.025	0.487	0.072	0.046	-0.138	0.000	-0.022	0.557	-0.033	0.354	0.004	0.922
学年（ベース：1年）												
2年	-1.040	0.243	-1.310	0.177	-1.455	0.117	-2.051	0.033	1.666	0.064	-0.856	0.348
3年	3.894	0.000	0.750	0.542	1.246	0.269	-1.111	0.363	2.478	0.023	1.531	0.188
設立（ベース：公立）												
私立	-0.508	0.731	-1.489	0.412	-3.925	0.014	-1.509	0.352	-5.980	0.000	-2.219	0.143
学科（ベース：普通（総合））												
商業	3.311	0.035	1.386	0.401	-0.871	0.608	-0.895	0.528	-3.171	0.055	1.013	0.443
工業	2.232	0.117	5.733	0.005	-4.019	0.010	-8.086	0.000	5.912	0.000	14.570	0.000
農林	0.042	0.985	-1.003	0.696	-5.822	0.019	-4.362	0.045	7.439	0.002	5.697	0.005
定時	3.991	0.056	5.180	0.029	-12.655	0.000	-10.330	0.000	-3.019	0.163	2.920	0.156
特別支援	16.013	0.000	17.250	0.000	3.862	0.258	-2.070	0.552	4.993	0.132	8.215	0.013
その他	4.090	0.056	6.767	0.007	-1.533	0.505	-8.180	0.000	5.976	0.008	3.791	0.085
定数項	45.692	0.000	51.733	0.000	53.060	0.000	54.040	0.000	45.794	0.000	49.675	0.000
観測数	28264		27474		28264		27474		28264		27474	
グループ数	72		73		72		73		72		73	
尤度比	140.7	0.000	267.48	0.000	157.88	0.000	137.18	0.000	332.56	0.000	104.64	0.000

付表 10　高校生の C 検査（R、I、A）の推定結果

	R				I				A			
	男子		女子		男子		女子		男子		女子	
	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値
有効求人倍率	-0.194	0.749	0.060	0.924	-0.866	0.143	-0.396	0.508	-1.399	0.025	-0.006	0.993
トレンド項（1次）	0.744	0.068	0.263	0.517	-0.324	0.413	0.049	0.900	0.013	0.975	0.506	0.221
トレンド項（2次）	-0.058	0.110	-0.029	0.422	0.016	0.646	-0.029	0.407	-0.032	0.389	-0.092	0.013
学年（ベース：1年）												
2年	0.832	0.402	-0.870	0.363	-1.416	0.123	-2.256	0.012	-0.508	0.559	-3.125	0.002
3年	1.594	0.179	1.845	0.128	-2.773	0.012	-1.967	0.085	-1.743	0.108	-3.161	0.012
設立（ベース：公立）												
私立	-6.481	0.002	-2.488	0.148	-0.566	0.734	-1.812	0.247	-1.558	0.226	-2.891	0.114
学科（ベース：普通（総合））												
商業	-6.087	0.007	3.243	0.036	1.547	0.385	1.064	0.444	2.472	0.071	2.149	0.195
工業	5.217	0.013	15.724	0.000	3.767	0.022	10.914	0.000	1.262	0.295	10.216	0.000
農林	3.932	0.248	5.639	0.018	2.459	0.350	2.149	0.316	-0.551	0.773	2.436	0.345
定時	-5.154	0.063	3.373	0.138	2.270	0.322	7.364	0.000	2.037	0.293	3.318	0.167
特別支援	1.344	0.736	12.126	0.001	4.333	0.209	6.590	0.044	5.148	0.101	3.298	0.366
その他	3.242	0.270	3.421	0.158	3.818	0.110	8.047	0.000	5.446	0.004	3.622	0.156
定数項	48.438	0.000	48.136	0.000	46.329	0.000	47.988	0.000	55.692	0.000	59.143	0.000
観測数	28264		27474		28264		27474		28264		27474	
グループ数	72		73		72		73		72		73	
尤度比	548.28	0.000	137.26	0.000	215.37	0.000	166.36	0.000	93.58	0.000	163.16	0.000

付表 11　高校生の C 検査（S、E、C）の推定結果

	S				E				C			
	男子		女子		男子		女子		男子		女子	
	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値	係数	p値
有効求人倍率	0.537	0.383	-0.017	0.979	-1.984	0.001	-0.032	0.961	-0.915	0.121	-0.562	0.386
トレンド項（1次）	1.383	0.001	0.781	0.068	0.698	0.087	0.972	0.020	-0.076	0.847	-1.008	0.017
トレンド項（2次）	-0.104	0.005	-0.083	0.031	-0.090	0.013	-0.129	0.001	0.018	0.607	0.055	0.149
学年（ベース：1年）												
2年	0.363	0.687	-2.734	0.006	-0.998	0.277	-2.999	0.002	-1.490	0.112	-0.166	0.881
3年	1.905	0.084	-0.810	0.523	-0.335	0.764	-2.125	0.088	-0.960	0.394	5.732	0.000
設立（ベース：公立）												
私立	-3.323	0.020	-3.968	0.025	-3.633	0.018	-2.226	0.207	-1.917	0.288	-2.167	0.439
学科（ベース：普通（総合））												
商業	2.914	0.055	2.041	0.196	3.191	0.052	3.745	0.018	10.374	0.000	11.033	0.000
工業	-1.537	0.261	-5.996	0.003	-2.996	0.045	3.071	0.125	6.164	0.001	5.257	0.085
農林	-1.483	0.495	-2.026	0.406	-3.803	0.110	-0.542	0.824	1.041	0.719	3.447	0.423
定時	-1.981	0.337	-4.025	0.086	-4.048	0.062	-0.929	0.690	0.595	0.807	-0.972	0.780
特別支援	0.334	0.918	-9.971	0.006	-5.218	0.120	-4.409	0.220	11.576	0.001	2.623	0.584
その他	3.230	0.122	-4.232	0.090	3.681	0.099	-2.590	0.297	0.836	0.745	-4.902	0.185
定数項	46.138	0.000	49.151	0.000	55.526	0.000	51.574	0.000	47.296	0.000	47.110	0.000
観測数	28264		27474		28264		27474		28264		27474	
グループ数	72		73		72		73		72		73	
尤度比	120.1	0.000	153.43	0.000	135.21	0.000	157.18	0.000	386.37	0.000	1387.3	0.000

付表 12　高校生の分化度の推定結果

	男子		女子	
	オッズ比	p値	オッズ比	p値
有効求人倍率	1.028	0.517	0.997	0.944
トレンド項（1次）	1.033	0.248	1.020	0.507
トレンド項（2次）	0.996	0.143	0.997	0.317
学年（ベース：1年）				
2年	0.921	0.173	0.925	0.204
3年	1.017	0.820	1.181	0.035
設立（ベース：公立）				
私立	0.918	0.350	0.885	0.200
学科（ベース：普通（総合））				
商業	1.245	0.025	1.189	0.029
工業	1.203	0.033	2.179	0.000
農林	1.052	0.711	1.081	0.519
定時	0.813	0.121	1.064	0.646
特別支援	0.619	0.021	1.231	0.375
その他	1.241	0.113	1.185	0.242
閾値1	-1.999		-2.099	
閾値2	-0.286		-0.432	
観測数	28264		27474	
グループ数	72		73	
尤度比	148.03	0.000	78.81	0.000

寄稿　「職業レディネス・テスト」の活用を通してキャリア教育の推進を！

梶村章嘉(愛知県労働協会)

生徒一人ひとりの個性を科学的・客観的に捉えるためのアセスメント・ツールは、職業との関係性や将来の目標と照らし合わせ、適切にフィードバックするなど効果的に活用することで、より一層、自己理解と職業理解が進む。

アセスメント・ツールには、様々な検査が用意され、中学生、高校生を対象としたものには、公共職業安定所（ハローワーク）の問題用紙の提供もあり、「職業レディネス・テスト」と「厚生労働省編一般職業適性検査」が多く利用されている。当コーナーへ判定依頼をされる学生・生徒の判定数は年間 40,000 件を超え、生徒の職業意識を高め、将来の職業を真剣に考えさせる良い機会となる適性検査として各校でその結果を活用している。今回実施した「職業レディネス・テスト」の分析結果を踏まえて、その活用方法との関係をまとめてみた。

1. 「職業レディネス・テスト」における標準得点

A 検査（職業興味）と C 検査（職務遂行の自信度）、B 検査（基礎的志向性）の結果は、標準得点としてパーセンタイル順位を用いる。パーセンタイル順位とは、正規分布上で特定の得点間に含まれる割合は決まっており、この割合をもとに得点の低いところから順位をつけたものである。生徒には、このパーセンタイル順位についての説明は最小限にとどめ、100 点満点の点数として受け止めるように指導していくことが肝要である。この点数が高いか、低いかを生徒は興味深く受け止めてくれる。

世の中にある職業を 6 つの類型（現実的領域〔R〕、研究的領域〔I〕、芸術的領域〔A〕、社会的領域〔S〕、企業的領域〔E〕、慣習的領域〔C〕）に分け、それぞれの職業領域の標準得点を折れ線グラフで表現したものをプロフィールという。プロフィールに山と谷がはっきりでていることが望ましいとされている。山と谷があるということは、興味や志向性が分化していることを意味しており、職業への準備性ができていることを示す。つまり、どの職業領域に興味があるかがはっきりしていることを示しており、その領域の職業を中心として考えていけばよいことになる。

全ての領域に高い点数を示した場合は、何をやってよいのかわからない状態である。本当にやりたいものは何なのかを真剣に考えるようアドバイスしていただきたい。

逆に、すべて低い点数を示した場合は、なにもやる気がないことを訴えていると捉えることになる。この場合は、やりたいことは何なのかを今一度考えさせることになる。また、検査の際、ほとんど全てに「×」印をつけた場合にもプロフィールが下位を示す。この場合は、各種検査は自分を客観的な立場から見ることができるものだから、真摯に、素直な気持ちで受けるように伝えることが大事である。

2. 「職業レディネス・テスト」の各検査と分析結果

―『第 5 章 中高生の職業レディネスに対する景気の影響』水落分析を基に―

(1) 中学生における A 検査

興味のあることを職業にできればやり甲斐が出てくることは明らかなことである。どの職業領域に興味を示しているかを把握し、現時点の興味レベルから見た自己理解を図ることができる。

付表 1、2 の分析から、1 年生と 3 年生の係数の大きさを比較すれば、学年が進むと E 領域（企業的興味）、C 領域（慣習的興味領域）への興味が高くなり、一方 I 領域（研究的興味領域）では興味が低くなる傾向が分かる。

(2) 中学生における B 検査

日常生活での興味の傾向である基礎的志向性が分かる検査である。この検査から自己理解を深めることができる。

付表 3 の分析から、1 年生と 3 年生の係数の大きさを比較すれば、学年が進むと D 志向（対情報関係志向）への興味が高くなる傾向があり、一方 P 志向（対人関係志向）、T 志向（対物関係志向）は興味が低くなる傾向が分かる。

(3) 中学生における C 検査

C 検査は職業に対する自信の傾向が分かる。しかしながら、中学生、高校生の段階では職業に対する知識や体験が少なく自信度が低くなるのは当然のことである。だから、これからの職業や自分と社会とのかかわりに関する学習や職場体験などで自信を徐々につけていくことになる。

付表 4、5 の分析から、1 年生と 3 年生の係数の大きさを比較すれば、学年が進むと C 領域（慣習的興味領域）への自信度が高くなり、興味と自信度が正の相関関係にあることが分かる。

(4) 中学生における分化度

A 検査（職業興味）の得点の高い領域と低い領域との差を分化という。分化度が高いほど職業への準備性ができていることを示す。生徒が得点からイメージするのは、すべてが高い位置にある状態を良いと考える。しかし、この「職業レディネス・テスト」における職業の準備性を表す場合には、得点の高い領域と低い領域の差が大きい方がより分化していることを示す。

付表 6 の分析から、1 年生と 3 年生のオッズ比の大きさを比較すれば、学年が進むにつれ、分化度が高くなることが分かり、好ましい傾向を示しているといえる。

(5) 高校生における A 検査

付表 7、8 の分析から、普通科と他の学科との係数の大きさを比較すれば、工業科の生徒は R 領域（現実的的興味領域）、I 領域（研究的興味領域）、A 領域（芸術的興味領域）、C 領域（慣習的興味領域）が高くなり、商業科の生徒は S 領域（社会的興味領域）、E 領域（企業的興味）、C 領域（慣習的興味領域）が高くなっている。これは、学科の学習内容を踏まえて、将来の職業への傾向がはっきり出ていると推測される。

(6) 高校生における B 検査

付表 9 の分析から、2 年生と 3 年生の係数の大きさを比較すれば、学年が進むと特に D 志向（対情報関係志向）と T 志向（対物関係志向）が高くなり、普通科と工業科を比べた場合、工業科の生徒が高い得点の領域は D 志向（対情報関係志向）と T 志向（対物関係志向）となる。逆に低い領域は、P 志向（対人関係志向）である。これは工業科の生徒の特徴が良く出ている結果と思われる。

(7) 高校生における C 検査

付表 10、11 の分析から、普通科と他の学科との係数の大きさを比較すれば、工業科の生徒は R 領域（現実的的興味領域）、I 領域（研究的興味領域）、A 領域（芸術的興味領域）、C 領域（慣習的興味領域）が高くなっており、商業科の生徒は C 領域（慣習的興味領域）が高くなっている。これは、A 検査の結果とほぼ同様の結果で、学科の学習内容を踏まえて、将来の職業への自信が表れていると考えられる。

(8) 高校生における分化度

付表 12 の分析から、1 年生と 3 年生のオッズ比の大きさを比較すれば、中学生と同様に、学年が進むにつれ、分化度が高くなり、好ましい傾向を示しているといえる。そして、工業科の生徒の分化度が高くなる傾向は、専門学科の学習による将来の職業への準備性が備わっていることで、納得のいくことである。

3. ワークシートによる職業探索

(1) 興味検査（A 検査）の結果と職業との照合

興味のあることを職業にできたら、仕事に対するやる気が出て、やり甲斐がある。「職業レディネス・テスト」では、A 検査で 1 番高い標準得点を得た職業領域を視覚的に捉えつつ、職業探索ができるようになっている。

具体的な職業例が数多く掲載され、その中から自分が関心を持った職業を探索していくことにより、職業との照合が図られる。

(2) 基礎的志向性検査（B 検査）の結果と職業との照合

日常生活での志向性からアプローチして職業を探索するために B 検査で 1 番高い標準得点を得た基礎的志向性から職業探索ができるようになっている。ここでも具体的な職業例が数多く掲載され、その中から自分が関心を持った職業を探索していくことにより、職業との照合が図られる。

(3) 「Ｍｙ職業リスト」への記入

上記 3 の(1)(2)の職業探索から自分で選んだ関心のある職業を「Ｍｙ職業リスト」へ記入する。将来、職業を選ぶ時のヒントとして活用できるよう、また、今後の進路選択の資料として参考になればと思う。

4. 「職業レディネス・テスト」の活用とキャリア教育の推進

2011年の中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」では、キャリア教育を「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義した。

生徒が自分自身を知り、仕事の内容を知ることは進学や就職の方向性についての意思決定をするうえで重要なことであり、その際、アセスメント・ツールを活用することで、一人ひとりの個性を科学的・客観的に捉え、職業との関係性を知ることが可能となる。その結果を将来の目標に照らし合わせ、効果的に活用することこそがキャリア教育の目標である。

もちろん、生徒の職業への興味・関心は成長とともに変化する。そして、徐々に自己の人生を方向付けし、自分らしい生き方を実現していく。生徒が自己の将来を展望し、それに向けて社会の中での自分の役割を果たしながら、自分自身の人生の方向性を考えていくことが大切なことである。

教育は生徒に夢を抱かせるものだと思う。教師は生徒に夢を抱かせるよう語り掛け、生徒一人ひとりの夢を実現するためにアセスメント・ツールを活用して、生徒に適切なアドバイスを送ることにより、生徒はまた一歩夢の実現に近づくものと確信する。

報告書（本編）及び（概要版）は、あいち労働総合支援フロア Web サイト

http://rodoshien-aichi.jp/jouhou/index.html でご覧いただけます。

平成３０年２月２８日発行

中学生・高校生の職業意識に関する研究
―「職業レディネス・テスト」検査データの分析(応用分析編)―

編集・発行　公益財団法人愛知県労働協会事業課労働情報グループ
(あいち労働総合支援フロア産業労働情報コーナー)
所在地　〒450-0002　名古屋市中村区名駅４-４-３８
愛知県産業労働センター１７階
電　話　（０５２）４８５－７１５３